
空から降ってきた僕の友達

夢見る魔法少女

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空から降ってきた僕の友達

【Nコード】

N5161BA

【作者名】

夢見る魔法少女

【あらすじ】

高校1年の国博優雅。優雅の家に女の子が降ってきた。その女の子が優雅の人生を変えていく。

出会い

10月だというのに、初夏のような蒸し暑さが続いていた。ワイドショーでは、司会者が「暑さが続きますので、体調管理に気をつけて下さい」と注意を促していた。

襟元を開き手パタパタ扇ぎながら「異常気象かよ」「暑い暑い」と、誰ともなく文句を言っている人たち。

日本列島を襲う異常気象は、不測の事態を予感させた。

僕は高校1年の国博優雅。

僕には友達がない。友達なんて必要ないからだ。

今は1人で住んでいるアパートの中。僕は今、ワイドショーを見ている。ところが大きな雷がなり始めた。

「タ立かー」と優雅が言った瞬間……………

「ドーン」といいながら僕の家に落ちた。その雷の中に人がいた。

「いったー。着地失敗」という女の子。女の子が僕にきずいて「お前は誰だ？」と訊いてきた。

「僕は国博優雅。君は？」

「私は、魔法少女の麗李」

「君ってレイリーていうのか」

麗李は首を振った。麗李の瞳は不思議な色をしていた。しかもすごく可愛い。いかにも魔法少女って感じた。

「あの一ここどこ？」と聞く麗李。

「ここ僕の家」と言った瞬間に麗李が僕に

「ごめんなさい」といつてきた。なんであやまっているのかをきいてみると、麗李は指を指した。指した方を見ると天井に大きな穴が開いていた。僕は思わず「さいやくだー」といつてしまった。麗李が呪文を唱え始めた。僕はなんだろうなーとおもいつつあたりを見渡していたら、天井がみるみる直っていった。呪文を唱え終わった

麗李に僕が

「天井を直したおれいがしたい」といったら、

「友達になってください」といわれた。

僕の頭の中が真っ白になった。

戦闘開始

あの時から僕の人生が変わったと思った。麗李のおかげで……………

目が覚めた時は、麗李が朝食のよおいをしてくれていた。麗李の作ってくれた、朝食はすごく美味しかった。僕は最高のスマイルを麗李に見せた。麗李は

「私、弁当作っておきました」と言った。僕は、天に上るような感じがした。でも……………あれは、やりすぎだ。僕が給食の時間に弁当を開けた時、弁当の中身が150種類の食べ物がいっていた。僕は、あまりにすごいのでつい声を出してしまった。その瞬間クラスメイトがやってきて「国博の弁当がすごい」とか「おいしそう」とかいつてきた。僕は、クラスメイトの誰かに「誰が作ったの?」といわれた時すごくあせった。だって、比ベイトが僕にしゃべってくるなんてなかったからだ。僕はとっさに「僕の家にいる魔法少女……………」といった時にみんなが大爆笑した。僕は口をあんどくり開けるしかなかった。

家に帰ってそのことを麗李にゆうと麗李はよろこんでくれた。その瞬間外で、大きな爆発音がしたのでベランダからみてみると、そこには大きな怪物がいた。麗李にあの怪物のことを聞いてみると「あれは、魔法少女の敵」と言い出してベランダから飛び降りて怪物の方に行った。僕も麗李について行った。怪物は近くにいくほどすごく迫力がある。麗李は、すごく圧倒されていた。僕はその戦いを見守るしかなかった。麗李は、怪物に地面に叩きつけられた。僕は、すぐくみじめに思った。麗李を助けることさえもできないからだ。僕が悲しい顔をしていると、麗李が「私の魔力を少し与えます。その魔力で、あいつをたおしてください」といった。その瞬間、僕に

みるみる力が湧いてきた。僕は、その力の100%であいつを切り刻んだ。怪物は、灰になって消えていった。僕はふときがつくと、僕の両手に刀があった。僕はびっくりして麗李にきいてみると「あなたに少し魔力を与えましたがその刀は、あなた自身が作り出したもの。しかも、すごい魔力」とぶつぶついていた。それから、その刀が僕の相棒になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5161ba/>

空から降ってきた僕の友達

2012年1月14日17時54分発行